

事故・災害報告書（様式1）

報告日 平成29年01月10日

発生日時	平成28年12月19日（月）05時35分			管理責任者	所属	
発生場所					氏名・職名	
事業場区分	本郷地区			報告書記入者	所属	
現場状況	指導教員	不在	同室にいた人数（当事者除く）	0名	氏名・職名	
対応状況	他機関への連絡	消防・警察			連絡先	

当事者A	年齢・性別	36歳・男	安全教育	済	保護具の着用	なし
	所属・職名/学年	教員/准教授				

当事者B	年齢・性別		安全教育		保護具の着用	
	所属・職名/学年					

当事者C	年齢・性別		安全教育		保護具の着用	
	所属・職名/学年					

事故・災害発生状況及び発生時の研究・業務内容	<p>概要：無人の実験室で、終夜連続実験装置の電源ケーブルがショートし、出火。 自動火災報知設備の作動を受け、防災センター係員が現場に急行し119番通報。当該実験室の卓上フードと天井（約20平方メートル）を焼き、約35分後に消し止められた。消防による現場検証の結果、同実験室卓上フード内に設置された終夜連続実験装置（ペプチド合成機）の電源ケーブルの折れ曲がり部分がショートしたことが出火原因とされた。</p> <p>5:35 部局防災センター係員が防災監視モニター（自動火災報知設備）で火災表示を確認。係員1名が現場に急行。 5:40 本学警備室警備員1名現場到着。当該実験室は煙が充満し入室不可能な状況 5:45 部局防災センター係員による119番通報。同時刻、当該建物の非常用放送設備を用い館内避難放送開始。部局関係者に火災発生時の緊急連絡 5:50 消防隊到着、出火場所に案内、対策本部設置 5:55 所轄警察署到着 6:06 消防隊による放水開始 その後、当該実験室・直上階の部屋の扉・窓を開放、別隊による在館者確認 6:10 鎮火確認、当該実験室強制排気措置、その後消防・警察による鎮火後の現場確認 7:00 東京電力到着、室内の漏電調査 8:30 東京ガス到着、現場確認 14:19 東京消防庁調査課・所轄消防署による現場検証（中間報告） 16:05 東京消防庁調査課・所轄消防署による現場検証（最終報告）</p>
------------------------	---

事故・災害の原因
原因
<p>【出火原因：消防による現場検証結果】</p> <p>防犯カメラの映像の検証結果と、出火時部屋が施錠されていたことから、放火の可能性は極めて低い。火災が発生した卓上フード内を目視で検証したところ、ペプチド合成機回りの煙の跡から、合成機内部の実験スペースではなく、合成機の外(電源コード周りなど)から出火した可能性が高い。電源コードの根元付近にショートした痕跡が認められたため、ここが出火の原因である可能性がある。卓上フードの中央部にはペプチド合成機に配線された電源ケーブルや他の装置の電源ケーブルが纏められた OA タップがあったが、電源プラグや OA タップが溶けてないことからトラッキング現象やたこ足配線による負荷が原因の可能性は低い。よって、ペプチド合成機の電源ケーブルの電気的なショートが出火起点となり周囲の可燃物に引火したと考えられる。</p>
背景要因
<p>該当のペプチド合成機の電源ケーブルに物理的な損傷が起きていた可能性が考えられる。</p>



再発防止対策内容
<p>研究室内の実験機器のケーブル類に異常が無いが、定期的目視点検を行う。</p> <p>【部局環境安全管理室追記】</p> <p>火災事故発生翌日に所轄消防署による火災発生建物全体の立入検査あり。当日の講評にて下記事項について検討するよう依頼あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コードの屈曲など火災がおきやすい箇所の日常点検について ②消火活動に際し水をかけると危険な薬品の再確認について ③夜間・休日の在館者情報の把握について

対策状況確認欄（環境安全本部記入欄）
Empty space for confirmation